

友松対談 ⑩

前回のこの欄は、今年の7月で106歳になられた川崎の堀内信行先生にご登場いただきました。



大久保正治先生近影

今回は堀内先生よりややお若い、横浜市都筑区の大久保正治先生との対談を載せました。「ややお若い」などと言っても103歳になられるのですから、その青春時代は大正の終わりから昭和の初めにかけての、私達の想像を絶するような昔のことです。ですから、その時代を実際に生きてきた方のお話は、時代の証言として貴重なものだと思います、伺ったことを出来るだけそのまま載せることにしました。

懐旧談・私がまだ若かった頃

語り手 大久保正治（昭和4年-1930 神師卒）

聞き手 黒川鈴谷（昭和35年-1960 国大卒）

黒川 本日はお話を伺う機会を設けてくださりまして、ありがとうございます。さっそくお尋ねしますが、先生が師範に入学された動機は何なのですか。よくあるのは、身内に教師の方がいたとかですが。

大久保 親が先生だったとか、担任の先生を尊敬してとかいう理由ではありません。師範にすすんで教師になることを、親が勧めたからです。私の家は中川の農家でしたから、故郷を離れずに家を守っていくには、小学校の先生になるのが一番良いという考えだったのですね。もう一つ大きな理由としては、師範に進めば卒業後に短期現役兵として半年ほど兵役に付けば、その後は軍隊に徴集されることはなかった、と言うことが挙げられます。もっとも戦争が激しくなると師範卒業者の短期現役制度もなくなり、私も昭和20年に召集されましたけれどね。

黒川 先生が師範に入学されたのは、大正何年ですか。

大久保 私は大正14年、高等小学校2年を終わったところで師範の予備科というのを受けました。当時の師範には高小3年卒で受ける本科第一部のほか、高小2年修了で受験できる予備科というのがあったのですね。私の在学した中川小学校からは、私を含めて三人が予備科を受験しました。

黒川 私は昭和31年に国大を受験したのですが、鎌倉の校舎でなく建長寺のそばの鎌倉学園で試験を受けました。先生の時には試験の場所は何処でしたか。

大久保 私の時には、鎌倉の師範の震災で傷んだのを応急修理したで校舎で試験を受けました。

黒川 私らの時には、合格者は校舎の玄関内に掲示されたと記憶していますが、先生のころにはどんな方法で合否の発表があったのですか。

大久保 試験は一日では終らず四日か五日かかったのですが、第一日に国語・算数の試験をやりま。第二日目の午前中の試験を終えた後で、受験番号と氏名を書いて掲示してある紙の前に集められます。そして「今から氏名を消されたものは、午後から受験するに及ばず」と

いわれて、氏名が線で消されていきます。消された人は、もうその後の試験は受けられません。同級生3人のうち、私ともう一人は第二日午後の試験を受けられたのですが、三人目の友人は、後の試験を受けられませんでした。自分の名前が消されなかった安心感より、消された友人が可哀想という気持ちが強かったです。

黒川 それはちょっと厳しいですね。当時は他の学校でもその方式だったのですかね。

大久保 小学校の担任の先生が付き添って来てくれたのですが、その落ちた一人の子を江ノ島に連れて行って慰めてやったり、大変だったようですね。私は試験は最後まで受けることが出来ました。四日目か五日目か最後の日に試験が終わってから、結果は追って通知すると言われました。でも友人には合格通知が来たのですが、私には来ませんでした。

黒川 合格者には郵便か電報かで合格通知が来る、それが来なかったのですね。

大久保 私はそれで発奮しましてね。よし、それなら一年間勉強して来年師範の本科の試験を受けよう。合格すれば予備科に合格して本科に進んだものと、本科の同じ学年で並ぶことが出来ると思いました。

それから昼間は家の百姓仕事をし、夜はその頃の中川村にはまだ電燈はついていませんでしたから豆ランプの明かりで、販売店から取り寄せた高等科3年の教科書の勉強をしました。その結果、翌年大正15年の本科の試験に合格することが出来たのです。でも、本科1年に入学したと思ったら、実は本科2年でした。

黒川 えっ、それはどういうことですか。

大久保 師範学校の制度は時代によりいろいろ変わっているので分かりにくいのですが、私の入学し

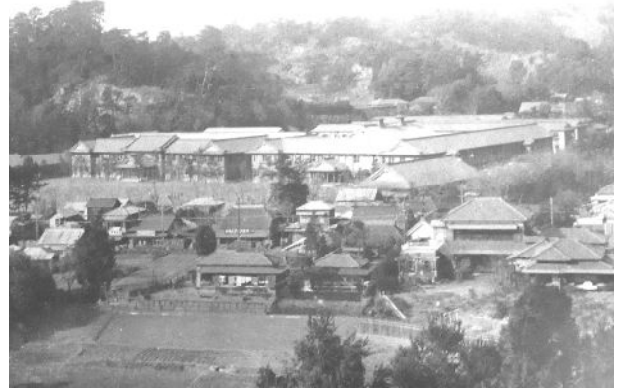


大正15年4月、師範入学時
大久保先生(15歳)

た大正15年に従来の予備科が無くなって、その年に予備科に合格した者は本科1年になりました。そしてこれまで4年制だった本科は5年制となり、前年度に本科3年だった者は4年を飛び越して5年になり、1年だった者は2年を飛び越して3年になったのです。ですから私たち本科の新入生も、1年を飛び越していきなり2年になったのです。

黒川 そう言えば、川崎の堀内先生からお話を伺ったときに、1年から2年を飛び越していきなり3年に進級したというお話があったのですが、そのときはどういうことか分かりませんでした。でも今のお話を聞きまして良く分かりました。師範学校の制度の変化によるものだったのですね。

大久保 この写真は師範に入学した時に撮ったものですが、制服の襟に付いている学年のマークがIではなくてIIでしょう。小さくてわかりにくいですが、虫眼鏡で見ると分かりますよ。



震災後、大正14年に新築落成した師範学校校舎
周囲が、まだ田園的である。

黒川 なるほどⅡですね。ところで入試ではどんな科目あったのですか。面接などもあったのでしょうか。

大久保 国語・算数・歴史・地理・理科など、一通り試験がありました。面接もありました。

黒川 面接ではどんなことを聞かれましたか。

大久保 昔のことなので忘れたことも多いのですが、小学校での担任の先生のことを聞かれたのは覚えています。

黒川 当時の師範の一学年の生徒数は、どれほどでしたか。

大久保 私たちの学年は甲組と乙組と二クラスで各組 40 人、学年で 80 人でした。

黒川 すると 1 学年 80 人として、5 学年で 400 人くらいが全校の生徒数ですか。

大久保 だいたいそんなところだと思います。その他に中学卒業で入学した二部生が若干いました。

黒川 その位の人数だと、川崎におられる堀内信行先生のごことは、師範時代からご存知でしたか。

大久保 普通は同じ学年か、学年が違っても寄宿舍で同じ部屋でないと、知り合うことはありません。堀内さんは直接には知りませんでした。たしか寄宿舍で隣の部屋だったので何となく知っていました。

黒川 寄宿舍で思い出しましたが、昭和 3 年入学の桐生さんという方に話を伺ったとき、寄宿舍の食事は量は十分だったが、味の方はどうも・・・ということでした。そうでしたか。

大久保 寄宿舍の食堂の食事は、一般の家庭と比べてごく普通だったのではないですか。その頃はみな質素だったですからね。そんなに不味かったとは思いません。

黒川 具体的な献立でいうと、今だったら家庭でよく出てくるカレーなどは出ましたか。

大久保 いや、出ませんでした。

黒川 今みたいに溶かせばすぐカレーになる固形のカレールウなどは、昔はありませんでしたからね。カレーを作るのはかなり大変でした。まして何百人分ですからね。その他の例えば肉類のカツとかステーキなどはどうでしたか。

大久保 そう言うものは出ませんでしたね。魚は時々出ました。



本館前の校庭に整列して 教練の授業

黒川 そうすると朝食などは、たぶんご飯に味噌汁と漬物、あとせいぜい佃煮くらいですか。海苔とか生卵などは付かなかったのでしょうか。

大久保 もちろん付きませんでしたよ。

黒川 昔は日本全体が質素したからね。今の人には想像できないでしょうね。

大久保 でも週に一度くらい、親子丼が出ることもありましたが。そのときは皆喜んで万歳でしたよ。

黒川 大久保先生が入学される前年の大正 14 年には、震災で倒壊した校舎に代わって新しい校舎が完成していますね。入学された大正 15 年には寄宿舍・附属小学校が落成しています。この新しい寄宿舍が、私達の時代まであった「蒼翠寮」ですね。

大久保 この寄宿舍の新築については、おもしろい話がありましてね。建築物の基礎工事は、今では機械で杭を打ち込んで作るのですが、このころはヨイトマケでやったのです。ヨイトマ

ケって知っていますか。

黒川 櫓を組んで、大きな鎚にロープをつけ滑車で上げ下ろしして地面を固めるのでしょう。そのロープの端に細いロープを何本も付け、大勢で鎚を上げてから一斉に手を放して鎚を地面に激突させる、そのときに「ヨイトマケ」と掛け声をかけるのでしょうか。私の子供の頃にはまだやっていた覚えがあります。

大久保 どういう訳か、ヨイトマケでロープを引くのは女の子の人なんですね。それも若い人より年配の人が多かった。その女の子の人たちの中に、師範の生徒が何人か授業に出ないで混じって手伝うのです。

黒川 えーっ、そんなことしても良かったのですか。

大久保 もちろん内緒でやるわけで、見つかったら叱られます。寄宿舎の建設にヨイトマケを内緒で手伝った叱られる危険を冒して何故そんなことをしたのかと言うと、なにしろ師範学校は完全な男の世界で、職員・生徒はもちろん事務や炊事の人まで女性は一人もいません。ちょっと殺伐とした世界ですね。ところが師範の生徒は15~20歳くらいで、まだ母親が恋しい時代なんです。だから内緒でヨイトマケをやった生徒は、ヨイトマケの女性たちに異性と言うよりは母親的な感じを持ったのだらうと思います。

黒川 なるほど、そうだったのかも知れませんね。そういう心情的なことも、私たちのように戦後の男女共学の時代に育った者には、なかなか分かりませんね。

この辺でちょっと師範での勉強のことを伺いたいのですが、特に好きだった教科や反対に嫌いだった科目などがございましたか。

大久保 そうですね、私は工作が好きでした。木工では写真立てなどをつくりました。金工では真鍮の四角い棒の真ん中に穴を開けて摘まみをねじ込み、文鎮を作るのが得意でした。

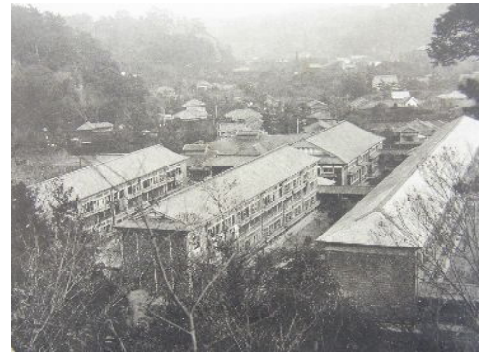
黒川 絵を描くとか音楽とかは、どうでしたか。

大久保 絵はあまり自信がありませんでした。音楽も指が短いので、器楽は得意ではなかったです。教科で嫌いだったのは英語です。

勉強で覚えているのは、生物の試験で「自動的免疫と他動的免疫につき記せ」という問題が出たときのことです。私はそのことを高等科3年の教科書で勉強して覚えていたので答えを書くことが出来ました。試験の後で先生が、「このことは高小3年の教科書に出ている。お前たちの中で書けたのは一人だけである。」と

言って私の方を見てニヤリとしたので、「あ、先生は褒めてくれているのだな」と嬉しくなりました。

黒川 5年生のとき、教育実習に行かれたと思うのですが、それに関連して師範の附属小学校のことをお尋ねします。『友松会100年の回顧 母校の変遷』という印刷物の中の[沿革年表]に、「1914(大正3)年、鎌倉郡腰越津村尋常高等正修学校を、神奈川県師範学校附属小学校に代用」という記述があります。この「代用」という意味がよく分からないのですね。これが大正13年のことならば、「そうか、大震災で



師範学校講堂内部。正面に御真影がある



山内第一小で担任した、尋常六年の児童

付属が倒壊して使えなくなったのだな」と納得するのですが、大正3年ではそんな理由ではないでしょうね。なんでこんな施設が出来たのでしょうか。

大久保 その理由は制度に関わることなので、私達生徒だった者には分かりません。

黒川 教育実習は5年生の時だと思いますが、1学期にやったのですか。

大久保 甲組は1学期に教育実習に行きましたが、私達乙組は2学期に実習をしました。

黒川 川崎の堀内先生は、正修小で実習されたとのことですが、先生はどこで実習をされたたのですか。

大久保 私は師範の敷地内にある附属小で実習しました。でも正修小で実習した者もありました。

黒川 どちらで実習するかは生徒の希望ですか、それとも師範学校の方で決めるのですか。

大久保 それは学校が決めるのです。でも生徒たちは皆、正修小で実習したがりましたよ。

黒川 それはどうしてですか。

大久保 生徒たちは毎日生活している師範の敷地から、少しでも外に出たかったのです。正修小は腰越ですからね。私も本当は正修に行きたかったのです。

黒川 お話を伺ってとてもおもしろいと思うのは、今のようなことは当時直接経験した人に聞かないと分からないのですね。その頃の師範の生徒の気持ちなど、資料には書いてありませんからね。その意味で今のお話はとてもおもしろかったです。

さて、無事に教育実習も終わってよいよ卒業ですが、昭和4年に師範卒業と同時に短期現役兵として軍隊に入隊したのですね。

大久保 いや、私は卒業するとすぐに山内第一小に赴任して、尋常6年生の受け持ちになりました。新卒が6年担任とはちょっと驚きましたがね。

黒川 えっ、そうなんですか。でも川崎の堀内先生は3月に卒業すると、4月からすぐに近衛歩兵第一連隊に入隊したそうですが。

大久保 私の同級生でも、卒業と同時に入隊した人もいました。でも私の場合は卒業のときにまだ満20歳になっていなくて、徴兵検査も受けていませんでしたから、そのときには軍隊には徴集されませんでした。この写真は、卒業と同時に近衛歩兵第四連隊に入隊した師範の同級生に面会しに行ったときのものです。

黒川 なるほど、そういうことでしたか。先生が卒業と同時に軍隊に行かなかったのは、何か健康状態に問題があったのかと思いましたが。短期現役兵は志願兵ではないから、徴兵検査が済んでいないのに、軍隊に徴集されることはありませんね。当時の人には常識で当たり前だったことも、後になるとわからなくなるのですね。



左、大久保先生。右、友人。

(昭和4.5.27)

大久保 この短期現役制度もいろいろ変化しましてね。私の高等小学校の頃は、6週間42日だけ入隊したようです。でもそれだけでは兵営に飯を食いに來るだけで、兵士としての教育は出来ないと軍が文句を言って期間が1年になりました。すると今度はその1年間の代用教員の確保が大変だからと文部省が陸軍省と交渉して、4月からの半年になったのです。でも4月から半年だと、9月いっぱいかかる。それでは2学期が始まってしまうからということで、8月31日までにしてもらったようです。昭和15~16年までこの制度が続きました。



近歩1、近歩2の共同の正門

黒川 なるほど、時代によって変わっているんですね。

それで、翌年昭和5年4月に先生はどこの連隊に入隊されたのですか。

大久保 私が入隊したのは、近衛歩兵第二連隊です。

黒川 昭和3年に堀内先生が入隊されたのは、近衛歩兵第一連隊でした。

大久保 近歩一・近歩二と違う連隊ですが実は敷地は隣り合わせで、今の北の丸公園の科学技術館がある辺りに近歩一があり、武道館のある辺りに近歩二連隊がありました。

黒川 では同時に入隊した短期現役兵の仲間も、師範での上級生と下級生があり、一年間小学校で勤務した人と、卒業と同時に入隊した人と混じていたんですね。

大久保 そうです。混じて一緒にやることによって、わずか一年の社会経験ですが、その有る無しは大きなものがあるといろいろな場面で実感しました。例えば千葉の習志野の演習地まで歩いて移動する時のことです。



近衛歩兵第二連隊時代の久保先生
(昭和5年5月)

黒川 習志野というと浦安の先ですね。と言うことは、北の丸公園からディズニーランドの先まで歩いたのですか。電車もトラックも使わずに。

大久保 今の自衛隊ならトラックを使うのですが、その頃の歩兵は歩くのが商売ですから当然歩くのです。日に照らされて日中歩くから、行軍の途中で休憩した時に近くの農家に井戸の水を貰いに行くのです。

黒川 そういうときに飲んだ井戸水は、美味しいでしょうね。

大久保 ところが最初に行った農家では、井戸の水を汲む釣瓶が壊れて、水が汲めないのです。そこで、隣の農家に行くと、そこでも釣瓶が壊れたと言う。三軒目の農家では、井戸端に釣瓶が見当たらない。そんなことで水が汲めません。

黒川 何でそんなに次々と釣瓶が壊れたり、なかつたりするのですか。変ですね。

大久保 当然、変ですよ。咽喉が渇いた兵隊たちは怒ります。でも一年間社会人として世の中を見た私達は、これには何か理由があるのだらうと思いました。

後で教官の話を聞いて分かったのですが、東京から千葉へ移動する部隊はいつも決まった経路を通過する。すると途中の農家はたまらないのです。

黒川 どうしてですか。水くらい上げても良いでしょう。
大久保 でも農家からすれば、相手の兵隊は次から次へとやってくる。井戸の水を上げるのも一度や二度では済まない。兵隊たちは急いでいるから、水を汲むのも乱暴にやる。しかもあの辺の井戸は浅いので、兵隊たちが次から次と乱暴に水を汲むと水が濁るし、なくなってしまうと、次に水がたまるまで農家が困る。かといって正面から水汲みを断われれば角が立つ。だから釣瓶が壊れたことにするのです。

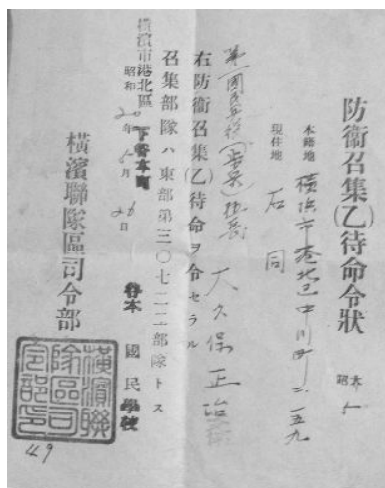


昭和5年5月 習志野で。短期現役兵の仲間と。後列左から二人目が大久保先生。

黒川 成るほど、農家には農家の事情があるのですね。

大久保 まあ、私たちもそんな事情は後で話を聞いて分かったことなのですが、なにか事情があるのだろうとは思いました。しかし、師範から直接軍隊に来て社会的な経験の無い人たちは、そんな事情を理解する余裕もなく、「けしからん」と怒っていました。一年間の社会経験の有無は、それだけ物事を見る目に違いを生じさせたのだなあと思いました。

黒川 軍隊から戻られてからは、ずっと横浜の小学校に勤務されたのですね。でも、昭和20年に召集されたとのことでしたが。



大久保 これがその時の召集令状です。

黒川 いやあ、これは珍しいものですね。軍隊手帳もありますね。こういうものの実物は初めて見ました。

大久保 こんな物をいまだに持っているのは、私くらいでしょうね。

黒川 しかし召集令状は俗に「赤紙」と言われますが、これは赤くありませんね。「待命令状」とありますが、これはどういう意味なのでしょう。

大久保 要するに文字通り「命が下るのを待つ」ということなのでしょう。でも命が下らないままに戦争が終わってしまって、この命令を出した連隊区司令部も命令を取り消さないまま

無くなってしまったので、私は終戦後70年近くずっと「待命状態」というわけですよ。

黒川 部隊名も書いてあり、集合場所は「谷本国民学校」とありますが、実際には集合しなかったのですね。

大久保 そうです。いまだに「待命」です。

黒川 でも「本土決戦」などにならなくて良かったですね。先生は戦後もずっと横浜市の教員として勤務され、最終は大綱小学校校長として定年退職されたのですね。その後も体育指導員・青少年指導員・民生委員・保護司などとして地域社会に貢献されました。これらの業績に対して、平成10年に勲5等双光旭日章を受章されました。それらの戦後のご活躍のお話も伺いたかったのですが、本日はもう長時間にわたってお話をお聞きしましたので、また他日機会がありましたら聞かせていただきます。本日はどうもありがとうございました。



平成10年2月1日、勲五等双光旭日章 受章